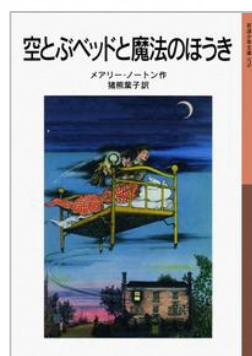


うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

こうがくねん む ねん なつごう
高学年向け 2023年 夏号



そら まほう
「空とぶベッドと魔法のほうき」
メアリー・ノートン/作 猪熊 葉子/訳
(岩波書店)

なつやす しゅう
夏休みにベドフォード州のおばさんのところにあずけられた姉弟、ケアリイ、チャールズ、ポール。三人はかわりばえのしない平凡な毎日を送っていましたが、修行中の魔女プライスさんに出会ってから、ワクワクの毎日が始まります！

きょうだい まほう とお みなみ
姉弟は魔法のベッドにのって、遠い南の島や、魔法使いのいる昔へとでかけます。

さて、どんな旅になるのでしょうか？

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」

です。
むずか
難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「百まいのドレス」

エレナー・エスティス/作 ルイス・スロポドキン/絵
石井 桃子/訳 (岩波書店)

ひゃく も い ます
百まいのドレスを持っていると言い、貧しいポーランド移民の女の子ワンダ。「ワンダは、ドレス百まい、もってるんだって」みんながワンダをからかうなか、マデラインはだまってみているだけ…。そんなある日、学校でデザインコンクールの優勝者が発表されました。壁一面をうめつくす百まいのドレスの絵。それはすでに引越してしまった、ワンダの作品でした。



「なきむしせいとく 少年の物語」

たじま ゆきひこ/作 (童心社)

ねんおきなわ な むし
1945年沖繩。泣き虫のぼくは、みんなから「なちぶー」と呼ばれている。ぼくのすむ沖繩はアメリカの軍艦にとりかこまれ、爆弾が落ちてくるようになった。母と妹と一緒に、昼間は森の中にかくれ、夜になったらアメリカ兵に見つからないよう、泣きながら逃げた。そして…。

だいにじせかいたいせんちゅう りくちせん とうと いのち うば
第二次世界大戦中、陸地戦でいくつもの尊い命が奪われた沖繩のつらい過去。長崎の子どもたちにも、知ってほしいです。



「たぶんみんなは知らないこと」

福田 隆浩/著 しんや ゆうこ/イラスト (講談社)

じゅうと ちてきしょう も とくべつしえん
すずは重度の知的障がいを持つ、特別支援学校の5年生。話すことはできないけれど、心の中には、いつも楽しい世界が広がっています。ママと先生の連絡帳や、お兄ちゃんのブログを通して、すずと家族や学校との関わりが描かれています。

ことば きも つた むすか ちてきしょう
言葉で気持ちを伝えることが難しい知的障がいの人は、どんな風に世界が見えているのかな？



「父さんがかえる日まで」

モーリス・センダック/作
アーサー・ピナード/訳
(偕成社)

ふなのり とう こうかい で あいだ
船乗りの父さんが航海に出かけている間、アイダは赤んぼうの妹のお守りをしなければなりません。母さんは、じっと遠くを見つめながら父さんの帰りをまつばかり。

ところが、ちょっと目を離れたすきに、妹はゴブリンにさらわれてしまい…。妹を取り返すためアイダの冒険が始まります。



「そんなわけで都道府県できちゃいました! 図鑑」

伊藤 賀一/監修 粟生 こすえ/文 なかさこ かずひこ! /構成・絵 主婦の友社/編 (主婦の友社)

ほん とうふけん な た なまえ
この本では、都道府県の成り立ちや名前の由来が紹介されています。みんなは「長崎県」の名前の由来、知ってるかな？

にほんち す おほ たの
日本地図を覚えるときにもぴったりだし、楽しい豆知識が満載です！家族や友達と一緒に読んでみると楽しそう♪

ときつちょうりつときつとしょうかん
発行：時津町立時津図書館